環境滋賀　私の意見評論

「エコライフ、エコファミリーから美化のエコタウンづくり」へ…随想…提言

能登川町　北川恒雄

「エコ」という言葉や文字はよく日常生活で見聞いたします。そして、**個人が、家族が、団体が、地域が、会社が、学校が**関心を持ち大なり小なり可能な再生、節約、倹約を実行されています。

私は次の重点対策は、先ず個人、それらの地域集団が取り組むことによって一歩一歩到達するであろうと考えます。以下当面の問題としてピックアップいたします。

●ゴミ減量、ゴミ分別の励行

「捨てればゴミ、生かせば資源」ということで消費者は分別収集に協力しているが、まだまだ大量生産大量消費、過大や過剰包装、必要以上の過剰購入などが主因で安易に放棄する。自治体は処分費用、処理場に苦慮され、利用者負担が間接に高騰している。他方、不法投棄が中には粗大ゴミが河川や堤防、雑草地に散乱し美観を損ね、腐敗、悪臭、汚水の元凶となっている。やがて、それらが循環して人間の健康生活に悪影響を与えている。清浄な空気や清水、土壌や食物に汚染を与えている。昔は空気や水はタダであったが、いまや浄化装置がいる時代となりました。残念ながら、あと2％前後の住民や通行者が守ってくれればいいのですが…効果的な方法は、本人のモラル、自制心になる。

「ポイ捨てが、また良心も捨てている」「ゴミだって　スリムにだして　ちょうだいね」

●公共街灯の点検整備

一隅を照らす街灯は道路の交通安全と防犯に夜間役立っている。ところが照明器具や電球にも寿命があり、中には蛍光灯のグロー球が1分間に何十回と点灯を繰り返している。おそらく夜間何万回となる。それが1週間～2週間続いたり、消灯のまま放置？してある。設置の時は必要性や重要性を強調された結果ようやく設置されたと思うのだが…。また、感知器の不良で夜間も消灯したり、樹木が覆い暗いため昼間も点灯している。定額だから料金は不変だけれども、まさにムダエネであり蛍光灯の点灯何千時間を昼間で消費しているのである。昼間点灯は気づきにくいが設置者管理者は時々点検、付近の住民も通報するなど敏速に修理が望まれる。

●駐車場の美化と駐車禁止・道路の安全確保

いまや自動車の時代、至るところに駐車場あり、管理人不在の駐車場は不潔な部分が多い。例えば側溝は雑草やポイ捨てで詰まったり、汚泥が堆積し、集中豪雨の時などは道路にあふれるのが見られる。また借用者は周囲の散在しているゴミすら「我関せず」管理人の役目と割り切っている。迷惑するのは周囲の住民である。管理人も借用者もいま少し環境美化の意識をもってほしい。

住みよい町づくりの施設や設備、安全対策さらにバリアフリー化はどんどん改善整備されていることは喜ばしい。ここで惜しむらくは、利用者がそれらに対して今少し、ルールやマナー、公衆道徳の順守、愛用、愛護、清潔、美化の底流があれば、エコタウンが維持される。

”来た時よりも美しく“

”立つ鳥跡を濁さず“

”汚すまい　ここはみんなの　くるところ　人が住むところ、行くところ、遊ぶところ、憩うところ、働くところ“

右述のような看板やポスターが不要になるように、各個人のブレーキを利かそう。